



バカラ村

2026 年 9 月 30 日 19:42

ウィリアムズ総裁の発言

昨夜の為替市場では、NY 連銀のウィリアムズ総裁による発言が利上げ観測に影響しました。ウィリアムズ総裁は利上げに関して「急いで対応する必要はない」「年内あと 1 回の利上げが適切になる可能性はある」と述べ、市場で一部過熱していた連続利上げ期待を冷ます姿勢を示しました。

前回の FOMC 以降、FRB のタカ派傾斜を受けて **CME FedWatch** 等では年内 2 回の利上げの可能性まで織り込みが進んでいましたが、この発言を受けて金利先物市場の織り込みは以下のように変化しています。

	CME FEDWATCH TOOL - CONDITIONAL MEETING PROBABILITIES							
MEETING DATE	375-400	400-425	425-450	450-475	475-500	500-525	525-550	550-575
2026/10/28	55.2%	44.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
2026/12/09	9.4%	53.4%	37.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2027/01/27	4.2%	29.2%	46.1%	20.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2027/03/17	1.1%	10.9%	33.7%	39.2%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2027/04/28	0.7%	6.7%	24.0%	36.9%	25.4%	6.4%	0.0%	0.0%
2027/06/09	0.4%	4.1%	16.6%	31.4%	30.3%	14.5%	2.7%	0.0%
2027/07/28	0.3%	3.6%	14.8%	29.2%	30.4%	16.8%	4.4%	0.4%
2027/09/15	0.3%	3.2%	13.4%	27.4%	30.3%	18.5%	6.0%	0.9%
2027/10/27	0.3%	3.1%	13.3%	27.2%	30.2%	18.7%	6.2%	1.0%
2027/12/08	0.6%	4.4%	15.0%	27.6%	28.8%	17.1%	5.5%	0.9%

cme-fedwatch

- ・ 10 月 FOMC： 55%の確率で据え置き（利上げと拮抗）
- ・ 12 月 FOMC： 約 90%の確率で利上げ

先日のドットプロットでも示されていた通り、年内に関しては「あと 1 回の追加利上げ」がメインシナリオであり、現状の年 1 回という市場の織り込みは妥当な水準に落ち着いたと見ています。

なお、来年に関しては 3 回の追加利上げ確率になっていま

すが、これに関しては今後のインフレや雇用の経済指標を確認しながら判断していく局面が続くと考えます。

ユーロドル安値更新

ここまでの為替市場は、FRB の追加利上げ観測を背景にドル高が主導権を握ってきました。その煽りを受ける形で、ユーロドルは昨年 5 月以来の安値を更新しています。

9月 30, 2026 19:29 UTC+9、fxbaccaratがTradingView.comで作成



TradingView

ユーロドル：週足

ユーロドル軟調の背景には、ドル高だけでなく、ラガルド総裁が今後の明確な追加利上げを示唆していないことや、ウクライナ情勢および中東（イラン情勢）を巡る地政学的リスクへの懸念が重なり、ユーロの上値を抑える要因として機能しています。

ドルインデックスは高値

9月 30, 2026 19:30 UTC+9、fxbaccaratがTradingView.comで作成



TradingView

ドルインデックス：日足

ドルインデックスは今年の年初来高値水準まで到達しました。ただ、上述の通り FRB の過剰な利上げ観測がいったん

後退したことや、主要なチャートポイントに到達したテクニカル的な達成感もあり、足元では上値を追う動きが一服し、調整の動きになっています。

四半期末

本日の為替市場は四半期末の最終日ということもあり、テクニカルやファンダメンタルズとは切り離された実需のフローによって上下に振らされる展開となっています。

東京市場のドル円の値動きを振り返ると、仲値通過後に機関投資家と見られるドル売り・円買いフローが持ち込まれ、一時 156.38 円まで急落しました。しかし、下落した局面では実需筋の押し目買いが入り、157.25 円まで反発。現在は 157.00 円を挟んだ水準で方向感を模索しています。

経済指標とドル円

今夜の注目材料として、日本時間 21 時 30 分に米 8 月 PCE デフレーター公表が控えています。10 月 FOMC での利上げ・据え置き確率が五分五分で拮抗している現状を考えると、今夜の PCE デフレーターや今週金曜日に控える米

雇用統計の結果は、市場の政策金利見通しを左右する重要なイベントとなります。

本日は四半期末特有のフロー（期末リバランス）が断続的に持ち込まれやすいため、特殊要因による突発的な値動きに巻き込まれないよう、基本的にはポジションを無理に傾けず様子見の時間が長くなりそうです。ドル円に関しては、指標結果にもよりますが、直近の保ち合い（レンジ）を中心とした推移が続くと想定しています。



トレーダーズショップ: バカラ村の FX トレードメルマガ